

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート 9月
日本とオハイオ州

こちらでは10月6日から9日まで、フィンドレー大学のフォールブレイク(秋の連休)を迎えています。しかし、こちらの気温は0℃まで落ち込み、もうすでに冬を感じさせます。さて、もう留学生生活が2カ月を過ぎようとしています。夢の中でも英語が出てくるようになってきました。今回は、大学と9つの高校とのイベントTravel The Globeとフィンドレーで働く日本人のイベントFriends of Findlayの二点について話したいと思います。

■Travel The Globe

外国語(スペイン語と日本語)を学んでいる現地の高校生275名がフィンドレー大学に訪れ、様々な国から来ている留学生と交流するイベントです。主に、4つのトピック:デート、固定観念、食文化、衣服について話し合いました。

このイベントを通して気付いた事があります。それは、アジアについて良く知っている高校生が少ないということ。今まで東南アジアを主に旅行してきた私は、誰もが日本についてある程度知っていると思っていました。しかし、私達がイスラム圏やヨーロッパについてあまり詳しくないのと同じように、彼らもアジアについてあまり詳しくないのです。それは、その文化に直接触れる機会が少ないからではないかと思います。そんな中で、このような大規模な国際交流の機会が高校生の時点であるのは、とても羨ましいことであり、日本でももっと取り入れるべきだと思いました。

また、日本語を勉強している高校生が30人程度いた事は非常に驚きでした。東海岸でも、西海岸でもなく、オハイオ州で日本語を学んでいる彼らは非常に貴重な存在です。そんな彼らに、私達日本人が直接触れ合い、話し合うことが出来たのはとてもうれしく、今後、更に日本文化を広める良いきっかけになったと思います。特に、留学ではインプットに集中して、どうしても受け身になりがちですが、このような自分たちの文化をアウトプットする機会があるのは非常に有難い事です。日本文化や歴史を今後も世界に発信していきたいです。



グループに分かれてのディスカッション



空気砲でTシャツを飛ばしているところ

■Friends of Findlay

フィンドレー市、またはフィンドレー周辺に工場を持つ会社で働く日本人が毎年集まり、ドッジボール大会を通して、交流を深めています。今年は、計13社200人以上が集まりました。

日本では、異なる会社が一堂に集まって、絆を深めることは中々ありません。そんな中、日本とは正反対な文化を持つアメリカで、日本人同士の繋がりを強く持つ事は非常に素晴らしいことだと思います。日本から離れれば離れるほど、日本への思いが強くなるのだと改めて感じました。

ほとんどの駐在員の方々は家族と一緒に渡米しており、たくさんのエネルギーな子供達も今回のピクニックに参加していました。小さい頃から、他の国の文化を感じ、学ぶ環境があることは非常に貴重で、子供達も伸びやかに過ごしているように思えました。また、今回はドッジボールに参加させていただきましたが、大人は利き腕とは反対の腕で投げるということで、結果的に子供達の足を引っ張ってしまい、翌日にはひどい筋肉痛に襲われ、面目ない限りでした。

この日本人ネットワークの一員になれたことは光栄なことであります。また、一人前として認められるよう、より一層インターンシップに力を注ぎたいと思います。



6歳以下の子供達による徒競走大会